

発行にあたって

菊池武夫の関係史料については、すでに書簡編（資料集第四集）・日記編一（同第六集）・日記編二（同第九集）の三集を翻刻してまいりましたが、四集となる本集には、日記編三として日記帳二冊を収録いたしました。菊池武夫関係史料の翻刻は、本集の刊行をもって一応終了ということになります。

収録した日記帳は、明治三十一（一八九八）年から同三十九年、菊池の年齢でいえば四十四歳から五十二歳にいたる間の事柄を記したものであります。日記帳の一冊目は本文と金銭出納帳が合冊され、他の一冊は本文のみとなっております。この時期の菊池は、貴族院議員として活動するかたわら、法典調査会委員・東京弁護士会会長・法律取調委員・刑法取調委員会起草委員等の要職を歴任し、法曹界の重鎮として活躍しています。他方、東京法学院・東京法学院大学・中央大学の院長・学長をつとめ、同校を大学という名称にふさわしい高等教育機関とすべく、積極的な学内改革を主導する時期にもあたっています。二冊の日記帳は、菊池の壮年期における充実した生活の実像を明らかにしてくれます。

書簡編・日記編一・日記編二とともに、広く皆様に活用していただけるよう祈念しております。

また、史料の翻刻をご快諾下さった菊池英子氏、菊池武範氏、蘆野みち氏、友田靖子氏に対しましては、心より感謝の意を表する次第であります。

一九九二年三月

専門委員会主査

服部 昌太郎